

研究課題		ユニ型組織の設計と組織内コミュニケーション
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、申請者らがこれまで検討してきたユニ型組織の研究について、その体系化・理論化することである。従来の多くの組織は、組織の目的を達成するためのルール、管理方法、個人の役割、コミュニケーションを規定するのに対し、ユニ型組織は、1人ひとりの目的を組織として支援し合うことを通して組織としても個人としても成長することを目指す。現在は、自身の研究室や次世代社会研究センター（RINGS）での基礎的な観察や検証が行われているほか、高等学校向けにワークショップの開催を行っている。本研究では、引き続き観察や検証を通して体系化・理論化を進めていく。また、今後の展望として申請者が得意とする Human-Agent Interaction(HAI) の技術を活用することで、コミュニケーションの支援や自動化を行う構想をしている。
	研究の結果	本研究が進展した結果、組織論と HAI を組み合わせた研究を体系化し、3つの構成要素からなるコミュニティ AI プロジェクトを立ち上げるに至った。 1 【メンタリング AI】 R4 年度に、企業との共同研究に発展している。組織の中で上司と部下の 1on1 メンタリングの重要性に着目し、メンタリングを行えるシステムの開発し、RINGS を活用した評価実験を行い、電子情報通信学会 HCS 研究会で発表した。また、収集したデータに基づく自動化も進めている。 2 【マッチング AI】 組織内のつながるべき人と人を提案できるシステムの構想をまとめている。OKR と呼ばれる目標管理手法に基づく情報を活用したマッチングが有望と考え、初期的な検証を進めている。来年度企業と共同研究を実施する予定である。 3 【マネジメント AI】 タスクやモチベーションを管理するシステムの開発に着手している。Notion と呼ばれるツール上で収集した個人活動から、適切なサポートがどのような形で実現できるかを検討している。
	研究の考察・反省	一連の研究は、組織と HAI の両方を研究してきた我々の研究チームの独自性が強く生かすことのできる内容としてまとまってきていると考えている。また、企業との共同研究という形でそれぞれ進展を見せていることも重要な成果と言える。 また、学会以外にも企業や地方自治体からの注目も集まり、当該テーマに関する講演会なども開催されている。今後も社会実装を前提とした研究の発展に力を入れていきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>■研究発表</p> <p>人工知能学会 大澤正彦, 第3次 AI ブームにおける『人工知能』の捉え方を見直す 2022年6月15日/京都国際館</p>